

<全体分析>

試験時間

120 分

解答形式

記述式と客観式。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

- ・読解総合の英文量は、2022 年度の 1,587 語から 1,621 語となったが、ほとんど変化なし。読解総合全体の設問数が 14 問から 15 問に 1 問増えたが、難易度に変化なし。
- ・英作文は、[A]では 2022 年度と同様に語句整序 3 問が出題された。[B]では、2022 年度は与えられた英文の要約と意見論述を行う自由英作文 (2 問で合計 100 語程度) が出題されたが、2023 年度は与えられた英文を読んだうえで、その議論に続けて質問に対する意見論述を行う自由英作文 (80 語程度) が出題された。難易度に変化なし。

出題の特徴

- ・読解総合は 2 題で、記述式と客観式である。2020 年度以降、2023 年度も内容一致が出題されなかった。
- ・英作文は、語句整序と自由英作文が出題された。

その他トピックス

特になし。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「語の音とその音から連想される形状」 (797 words)	設問は、内容説明記述 (4問)、下線部内容選択 (1問)、空所補充選択 (1問)、下線部言い換え表現選択 (1問) となっている。 内容説明問題は、解答の根拠となる該当箇所が見つかっていても、指示された字数内でまとめるのが難しい。 5. ルーマニア語の具体例を挙げることに注意する。 《出典》 Cathleen O'Grady, "Nonsense Words Make People Around the World Think of the Same Shapes", <i>Science</i> (2021, November 14) (大学発表)	やや難
II	読解総合	「子守唄について」 (824 words)	設問は、内容説明記述 (4問)、空所補充選択 (3問)、動詞の語形変化を伴う空所補充 (1問) となっている。 内容説明問題は、解答の根拠となる該当箇所が見つかっていても、指示された字数内でまとめるのが難しい。 2. 「子守唄」について明らかになったことを説明する必要がある。 《出典》 Hannah Reyes Morales, "Songs to Soothe", <i>National Geographic</i> (2020, December) (大学発表)	やや難
III	英作文	[A] 語句整序「日本が新たに開発した食用セメント」 [B] 自由英作文「インターネットがどのようにあなたの生活に影響を及ぼしているか」	[A] 標準的な文法・語法・構文の知識があれば、正解するのは容易である。 《出典》 Faith Pirlo, "Japan's New Edible Cement", <i>VOA Learning English</i> (June 4, 2022) (大学発表) [B] 与えられた英文を読み、その議論に続けて自身の経験から自分の意見を 80 語程度の英語で書く。 《出典》 "Is the Internet Making US Stupid?", <i>ProCon/Encyclopaedia Britannica</i> (2022, April 5) (大学発表)	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

長文の正確な速読速解力と英作力を強化することが重要である。そのためには、「読み」「書き」を重視した豊富な練習が必要である。英作文は、基本的な構文と表現を身につけることが何より重要となる。出題の有無にかかわらず、文法・語法や会話表現の定着を怠らないように。日頃から本や新聞などを読むことで知識を拡充するだけでなく、記述式解答に対応する日本語表現力を高めておくことも合格へのカギとなる。